

第4章 哺乳類

| | |
|----------------|-----|
| 1. 調査の概要 | 4-1 |
| 2. 調査結果 | 4-4 |
| 3. 宗像市の哺乳類相の概要 | 4-7 |

資料編

- ・ソナグラム
- ・写真集

執筆者 渡部 登

1. 調査の概要

(1) 哺乳類調査を行うにあたって（哺乳類の区分等）

哺乳類は体長によって3つのグループに区分される。それぞれ、大型哺乳類、中型哺乳類、小型哺乳類となる。

大型哺乳類は九州全土から姿を消したと思われているツキノワグマがこれに当たるが、江戸時代の筑前国産物帳の動物にはクマと思われる動物名が見当たらない。生息していたはずではあるが九州山地深くに生活しており、人家までおりてこなかつたと思われる。ニホンザルは山地に普通に生息していたものと思われる。

中型哺乳類ではイノシシ、ニホンジカ、タヌキ、アナグマ、ホンドキツネ、ノウサギ、ホンドテン、ホンドイタチ、ニホンカワウソ、ニホンムササビ、ホンドリスが生息していたと思われる。

小型哺乳類ではコウベモグラ、ヒミズ、ジネズミ、ハタネズミ、スミスネズミ、ハツカネズミ、カヤネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、クマネズミ、ドブネズミ、ヤマネ、モモンガ、アブラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ウサギコウモリが生息していたと思われる。

第1回自然環境調査（1995年 旧宗像市のみ）ではこのうち7目10科13属16種をあげることができた。また、第2回自然環境調査（2006年）では、7目10科13属16種の哺乳類の生息が示唆されている。

(2) 調査地域

基本的には2006年の自然環境調査実施地域を調査して約10年前の調査記録と比較して環境の変化を調べた。

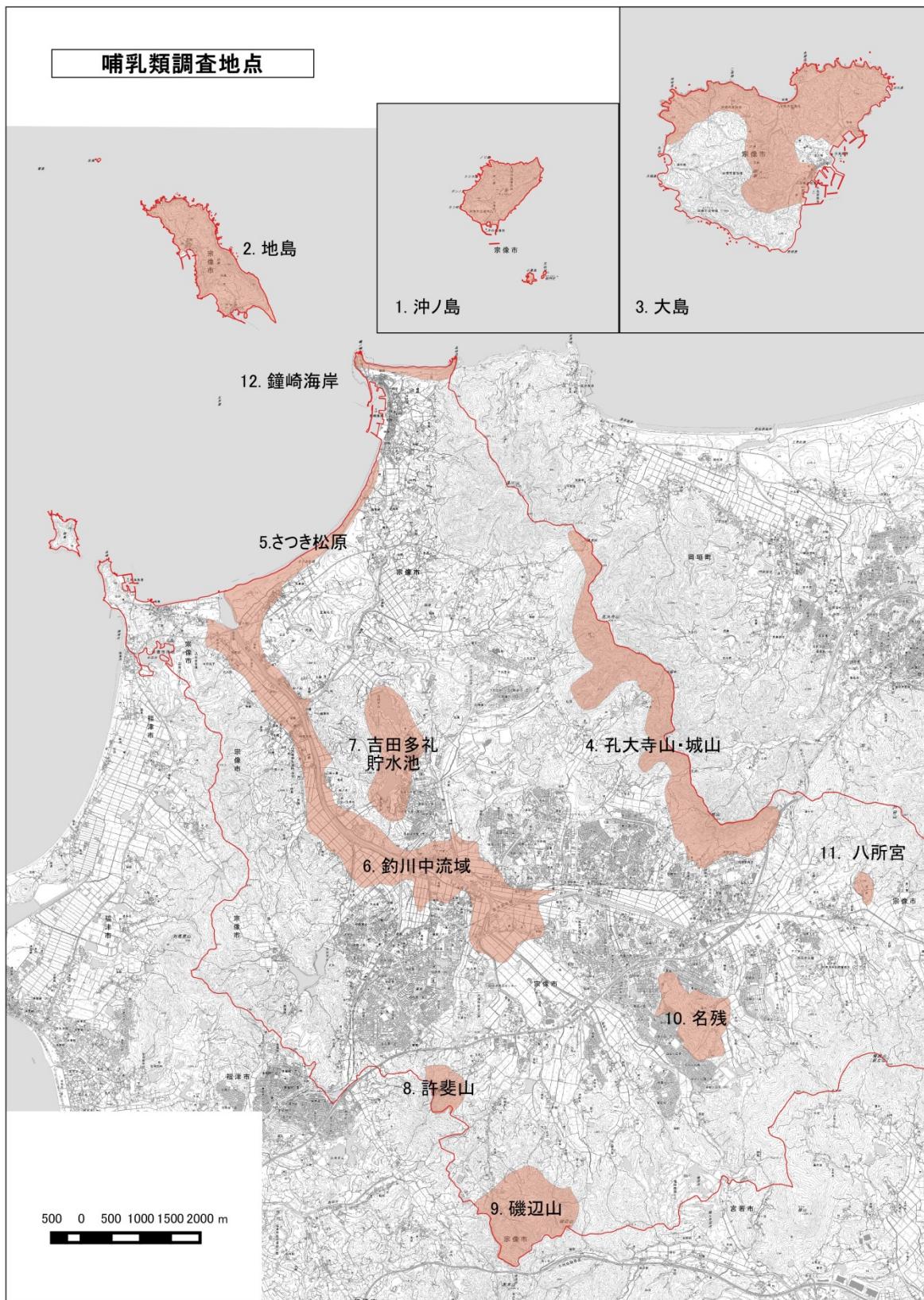


図 4-1 哺乳類調査地点

(3) 調査方法

哺乳類はほとんどが夜行性であるので足跡、土耕跡、糞、喰み跡などの痕跡によってその存在を確認した。市内の丘陵地域にシャーマン型生け捕り罠によって小哺乳類の捕獲を試みた。

コウモリ類の分布も積極的に明らかにするべく、可能な限り、鉱山跡地、廃坑、古墳などの洞窟内の探索を行った。カスミ網の用意をしたが実際は使わなかった。洞窟付近ではバットデテクター (MAGENDA ELECTRONICS LTD 社製. ヘテロダイン方式) を用いてコウモリの種とその有無を確認した。

コウモリ類の同定をはじめ、全調査で実地調査に同行していただいた九州国際大学付属高校の阪本嘉信教諭には多大な協力をいただいた。この場を借りてお礼申し上げる。

唐沢重考教授の指導の下、福岡教育大学学生による自動撮影装置を用いて城山・福岡教育大構内、許斐山山頂・山腹を数週間調査した。

そのほか他の分野の調査者や市民協力者からの情報もたくさんいただき、貴重な情報を得ることができた。

(4) 実地調査の実績

実地調査は以下の日程で行った。

表 4-1 調査日

| | |
|----|----------------------|
| 1 | 2015年6月1日(月) |
| 2 | 2015年6月14日(日)～15日(月) |
| 3 | 2015年6月28日(日) |
| 4 | 2015年7月18日(土) |
| 5 | 2015年7月29日(日) |
| 6 | 2015年8月23日(日) |
| 7 | 2015年9月22日(火)～23日(水) |
| 8 | 2015年11月8日(日) |
| 9 | 2015年12月20日(日) |
| 10 | 2016年2月14日(日) |
| 11 | 2016年4月10日(日) |